

会議録

会議の名称	平成30年度 第5回西東京市文化芸術振興推進委員会
開催日時	平成31年2月25日（月） 午後7時から午後9時まで
開催場所	保谷庁舎 別棟B・C会議室
出席者	委員：廣瀬委員長、田中副委員長、青木委員、葛西委員、島田委員、田邊委員、中野委員、藤井委員 （欠席：中平委員、中村委員） 事務局：田中文化振興課長、栗林文化振興係長、高松文化振興係主事
議題	1 第4回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案）の確認 2 第2期文化芸術振興計画（案）について 3 第2期文化芸術振興計画 概要版（案）について 4 「平成30年度施策・事業評価（平成29年度分）」調査結果について 5 その他
会議資料の名称	【当日机上配布資料】 資料1 第4回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案） 資料2 第2期文化芸術振興計画（案）について 資料3 第2期文化芸術振興計画 概要版（案）について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 第4回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案）の確認について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、資料1に沿って、前回の委員会会議録について説明を行った。（意見なし、了承） <p>2 第2期文化芸術振興計画（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、資料2に沿って、第2期文化芸術振興計画（案）について説明を行った。 <p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画と「平成30年度施策・事業評価（平成29年度分）」調査結果はどのような関係性になっているのか。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「平成30年度施策・事業評価（平成29年度分）」調査結果は現行計画に沿って体系立てたものに、各所管課が行っている事業・取組を一覧にしたものである。さらに29年度に実施したものについてご意見をいただいている。 	

・一方で、第2期計画の体系としては第1期計画を踏まえて修正したものであり、46ページから掲載しているものは現行計画で実施している内容を第2期計画に当てはめて、今後も同じような流れで具体的な取組が行われていくことを参考として示している。

○委員

・46ページからの事業一覧の中でICTが出てくるが、一般の方が理解できないのではないか。

○事務局

・現行計画でも注釈を入れているため、同様に注釈を追加させていただく。

○委員

・23ページの図の「関心のない市民」という表現はもう少し柔らかいものにした方がよいのではないか。

○委員

・確かに否定的な言い方が気になる。

○事務局

・少し表現を和らげて「関心がやすい市民」という表現にしてはどうか。

○委員

・よいと思う。

○委員

・図中の関心のない市民の例として「今度子どもに行かせようか」とはどのような意味になるのか。

○事務局

・アンケート調査において、自分は文化芸術に関心がなくても子どもにはそのような環境を与えることが必要だという意見が多かったことから、このような表現としている。

○委員

・興味・関心がうすく鑑賞していない市民という趣旨にした方がよいのではないか。

○事務局

・アンケート調査から来ているものであるため、可能な限り合わせた内容にしたいと考えている。「あなたは、文化芸術の鑑賞・体験や活動に関心を持っていますか。」と率直に聞いている。

○委員

・「文化事業に対して、特になしなどを回答する人など」という記述も、「アンケート

調査で関心がないと答えた市民」とした方が分かり易いだろう。

○事務局

- ・そのように修正させていただく。

○委員

- ・資料編47ページの一番上、校内学芸的行事の概要で「合唱コンクール」となっているが、市内小学校では「音楽会」として実施している。

○委員

- ・中学校では「合唱コンクール」として実施している。

○事務局

- ・合唱コンクールと音楽会を併記して修正する。

3 第2期文化芸術振興計画 概要版（案）について

- ・事務局より、資料3に沿って、第2期文化芸術振興計画 概要版（案）について説明を行った。

○委員

- ・カラフルになり、写真も多く見易くなっていると思う。

○委員

- ・2ページのアンケート結果はいつ実施したものか記載しなくてよいのか。

○事務局

- ・概要版は本編よりも省略した内容となるため、このままとしたい。

○委員長

- ・3月下旬には計画書と概要版が冊子になるとのことのようだ。

○事務局

- ・他にお気づきの件があれば、計画書本編と概要版を合わせて今週中にご意見をいただきたい。

○事務局

- ・補足で文化芸術振興基金についてご意見をいただきたい。現在、基金を活用した事業は「対話による美術鑑賞」のみだが、第5章にあるように基金を効果的に活用していきたいと考えている。文化芸術に関する条例や計画を策定している自治体は少なく、条例や計画を策定している自治体では、文化芸術団体などが実施する事業や、地域全体のお祭りなど、一部の市民でなく、多くの市民の方々が享受できるような取組に活用したいと考えており、委員皆様にもご意見をいただきたい。

○委員

- ・本編23ページの図の中で「都心まで行かずに鑑賞したい」とあるが、様々なボランティアなどが学びながら関わるような、発表の機会を企画すると面白いのではないか。保谷こもれびホールと連携し、照明などの舞台セットやアートマネジメントが学べたり、アーティストと協力して安価に出演いただくなど、様々な協力を得ることで都内などに行かなくても質が高く、様々なジャンルのコンサートを実施することができるのではないか。
- ・子どもの音楽の早期教育を実施するとよいと考えており、子どもたちが基礎から音楽を学ぶことができ、そこからジュニア・ユースオーケストラなどに入ることを目指すようなステップアップの事業ができるとよいのではないか。

○委員

- ・ジュニア・ユースオーケストラでも小学生の子どもたちはキラキラ星など基礎から学んでいる。

○委員

- ・国より支給される予算により、伝統工芸士が出張できるアウトリーチ事業は、都内で年間15校と決められている。西東京市内の学校全てに提供できればと思うが、そのような子どもたちの鑑賞・体験に予算をつけていただきたいと思う。

○委員

- ・子供たちからとても楽しかったという感想を聞いている。友禅染について学んだだけでなく、着物や帯についても初めて見たという児童もあり、日本文化への興味につながった。

○事務局

- ・本物を体験できる機会は貴重な体験であると思う。

○委員

- ・先日、NHKとの共催でN響ファミリークラシックコンサートをルネこだいらで実施した。JCOMの加入者のみだが、多くの方から応募があり、コンサートの前に楽器に触れてもらうワークショップなども実施するなど、よい取組となった。継続を望む声もいただいております、今回は小平市で実施したが、西東京市でも実施したいと考えている。
- ・基金の活用ということで、様々な趣向に合わせて、地域のアーティストや市民の方も巻き込みながら、地域が盛り上がっていくような仕掛けづくりができるとよいと考えている。

○事務局

- ・西東京市出身の有名なアーティストが何人かおり、チェロ奏者として活躍している岡本侑也氏など、地域ゆかりのアーティストがいることは地域の人々にとっても誇りになると考えている。子どもにとっても希望が持てるだろう。

○委員

- ・現在も様々なイベントでキッズダンスの参加があるため、子どもたちが盛んに実施しているキッズダンス大会は多くの人を集まり、費用も安価に実施できるのではない

か。

- ・来年はオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されるため、オリンピック・パラリンピックに関連した取り組みをしてはどうか。
- ・先日、映画監督である佐藤純弥監督がなくなり、ひばりが丘に住んでいたということから追悼記念を大きな規模でできるとよい。

○委員

- ・基金というのは、事業だけで、設備などに対しては活用できないのか。

○事務局

- ・近隣市の事例を見ても基金は事業に対して活用しており、施設整備などのハードに対しては課題も多い。

○事務局

- ・今後も検討する中で皆さんのご意見をお聞きしたいと考えている。

○委員長

- ・西東京市の文化が今後も盛んになるように、様々なイベントが実施されるようになるとうい。

4 「平成30年度施策・事業評価(平成29年度分)」調査結果について

《基本方針1「参加のきっかけづくり」－施策4 個人及び団体活動のきっかけづくり
④》

○委員

- ・【1-4-2】の②で市内で活動する11の施設、団体等にヒアリングを行ったというのは、どのような施設団体に行ったのか。

○事務局

- ・昨年度、第2期計画を策定するにあたって、市内の文化施設である保谷こもれびホールや市民会館や西東京市文化芸術振興会、西東京ジュニア・ユースオーケストラ、市民ボランティア・アートミー、西東京シネマ倶楽部などに行ったものである。

○委員

- ・対象を具体的に示した方がよいと思う。

○副委員長

- ・対象の追加について検討いただきたい。

《基本方針1「参加のきっかけづくり」－施策5 様々な人が参加しやすい環境づくり
⑤》

○委員

・【1-5-2】にある「日本の文化体験フェス」に外国人の参加はどのくらいなのか。

○事務局

・平成29年度は3～4名の外国人が参加していたと思う。

○委員

・もう少し参加を増やしていかなければ、実施できただけでは不十分ではないか。

○事務局

・西東京市多文化共生センターNIMICや日本語ボランティアセンターを通じてお知らせし、参加を呼び掛けているが参加人数は多くない。

○委員

・日本人は外国人とひとくくりにしがちだが、外国人全体に呼び掛けるよりも、欧米、アジアなどある程度対象を絞り込んだ方が来てくれるのではないか。

○事務局

・市内にも様々な国籍の方がおり、限られた予算の中で通訳などの対応も考えると、対象を絞りこんでいくのは一つの手法としてはよいと思う。他にも効果的な方法があれば参考にさせていただきたい。

○委員

・市内の外国籍の方は現在どのくらいいるのか。

○事務局

・毎年増加しており、約4,700人の外国籍の方が住んでいる。多文化共生事業も文化振興課が担っているが、通訳や相談窓口などは西東京市多文化共生センターNIMICが担っている。

○委員

・「日本の文化体験フェス」では、どのような取組を行っているのか。

○事務局

・浴衣や組み紐、習字、謡曲、茶道や生け花など市民文化祭に参加していただいている20団体ほどの協力を得て実施している。

○委員

・日本の伝統的な文化だけでなく、アニメや忍者などのエンターテインメント性の高いものは実施できないのか。

○事務局

・市内で活動されている団体の方がボランティアで行っていたりするため、体験の機会と提供していただく講師の確保が課題である。課題が解消できればアニメなども含めて枠が広がれば可能性はあると思う。

○委員

・外国人の方は「くらしの情報」の翻訳版は読んでいるのか。

○事務局

・様々な箇所に配布しているが、実際に読んでいるかどうかは把握できていない。

○委員

・障害者の方は文化祭などに参加しているのか。

○事務局

・人数の把握は行っていないが、障害者の方の参加は少ないと思う。

○委員

・展示などは観に来る方もいるのではないか。

○事務局

・菊花展などでは、車いすで来る方もいるが、障害者の方ではなく、高齢者の方が観に来られている。

○委員

・保谷こもれびホールとしても、設備面でバリアフリー対応について考えており、実際に活用されている取組やシステムなどがあれば参考にさせていただきたい。

○事務局

・あえて障害者の方を対象とするのではなく、「日本の文化体験フェス」でも小さな子どもから外国人、障害者の方など、誰もが参加していただけることを周知させていただいているが、より参加しやすくなる工夫は必要だと感じている。

○委員

・「日本の文化体験フェス」では外国人の方が3～4名しか参加していないということだったが、どこで実施されたのか。日本人も一緒に参加すればよいのではないか。

○事務局

・外国人の方の参加が3～4名だが、誰もが参加できる事業であり、外国人の他にも日本人の小学生などの子どもたちも100名以上が参加している。

《基本方針2 「市民が活動しやすい環境づくり」－施策1 活動者のニーズ把握⑥》

○委員

・【2-1-1】で市民会館の利用者懇談会が10回開催されたのは定期的なものか。

○事務局

- ・利用者懇談会については、平成29年度は市民会館閉館に伴い、施設利用者の方などにこれまでの経過、代替施設などについてご説明するため10回開催した。

○委員

- ・【1-2-1】の④外国籍市民及び障害者のニーズ把握で「日本の文化体験フェス」を取り上げているが、先ほどの説明にあったように外国人の方が3～4名で、障害者の方の参加は少なかったのであれば、ニーズを把握したとは評価できないのではないかと。また、他の機会もあるのではないかと。

○事務局

- ・評価はBに改めさせていただきたい。ニーズ把握できるのがイベントなどのアンケートを実施する機会となるが、「日本の文化体験フェス」だけでなく、他にも外国籍の方が参加されるイベントなどもあるため、様々な機会でも多くの方のニーズを把握するようにしていきたい。

○委員

- ・「日本の文化体験フェス」のチラシは多言語で翻訳されているのか。

○事務局

- ・現在は日本語と英語表記で作成している。

○委員

- ・ゆめこらぼに登録している外国人の方を支援している団体とのつながりを活用していくとよいのではないかと。

○委員

- ・市民会館では利用者懇談会を実施していたとあるが、ホールだけでなく、様々なスペースを団体の活動で使用されていたと思うが、実際に市民会館で活動していた人達はどのようにしているのか。代替施設として公民館もあるが、公民館は市民でなければ利用できない。市民のための場所はもちろん、市外の人も含めて活動・交流する場所であったことも否定できない。
- ・市民が活動しやすい環境づくりとして、方針を明確に打ち出していただけるとよい。

○事務局

- ・市民会館は有料施設のため、市内・市外、団体・個人の活動の場として担ってきた。一方で、市内には公民館や福祉会館などがあり、それぞれの施設の考え方で利用対象者や用途を定めている。しかし、公共施設の老朽化などもあり、福祉会館などは活動していない時間帯を一般開放してもらいたいなどの、意見もある。今後、類似施設の有効活用について検討するものと考えている。

○委員

- ・市民であっても学校に不特定多数の方が出入りするのには現実的ではない。

○事務局

・体育館と校庭のみの開放が一般的だと思うが、地方の自治体ではうまくエリアを分けた利用をしている例もあるが、安全面などが充分でなければ難しいだろう。

○委員

・市民会館がなくなり、活動場所の確保ができなければ、活動が継続できなくなってしまう。

○事務局

・市民の皆さまが継続して文化活動が行えるよう、周辺公共施設等についても、代替施設として利用できるよう、既存施設の有効活用の視点で検討する必要があると考えている。

○委員

・早期に対応していただきたい。

○委員

・【2-1-1】の公民館での利用者懇談会ではどのような意見があるのか。

○事務局

・他部署管轄の詳細な内容については把握していない。

○委員

・市民会館と公民館であれば無料の公民館を優先的に利用したいと思うが、コンサート近くになるとティンパニなども使いたいために、こもればホールを予約するなど用途や時期に応じて使い分けをしている。

《基本方針2 「市民が活動しやすい環境づくり」－施策2 文化芸術の情報拠点の明確化⑦ 》

○委員

・ホームページやICTを使った配信は日本語のみなのか。

○事務局

・基本的には日本語だが、外国人の相談窓口案内や防災などの情報は多言語表記をしている。

○委員

・外国人の方は印刷物よりもインターネットで検索する方が多いと思うので、Web上の翻訳サービスを充実する方が効果的だと思う。

○事務局

・市民文化祭についてはフェイスブックなどでも多言語発信はしている。

○委員

・実際に取り組んでいることがあれば実績の項目に取り上げたほうがよい。

○委員

・文化施設のホームページでも多言語に切り替えできるものはある。

○事務局

・広報の担当課に多言語表記の充実についていただいたご意見を共有させていただく。

○事務局

・市ホームページでは、英語、中国語、韓国語に切替できるようになっている。

○委員

・翻訳は誰が行っているのか。

○事務局

・通訳派遣や翻訳は文化振興課が行っている。通訳派遣については、学校の三者面談や母子世帯に対する支援として行っている。また、多文化共生センターでは相談窓口を設けている。

《基本方針2 「市民が活動しやすい環境づくり」－施策3 文化芸術を発信する機会・環境の提供⑧》

○委員

・下保谷児童センターには立派な音楽スタジオがあるが、夕方までしか利用できなかったり、18歳未満しか使えないなどの制限があるようである。
・【2-3-1】の③のペDESTリアンデッキは実際に活用されているのか。

○事務局

・ペDESTリアンデッキは実際には道路という位置づけではないものの、安全性が確保されないと活用できない。市民団体がイベントなどで単独で利用することは難しい。

○委員

・東京都で実施しているようなヘブンアーティストのような取組は可能なのか。

○事務局

・安全性の配慮や対策を行った上で実施することになると思う。
・ひばりヶ丘駅北側ロータリーの整備を行っており、イベントなどの要望があれば相談してほしいと道路管理を担当する部署から聞いており、今後、人々が集まる場所の活用の可能性も広がっていくのではないかと考えている。

○委員

・市民が市民のためだけでなく、市外の人々が市民に文化に関する取組を提供することもあるのではないのか。

○事務局

・西東京市との協働事業や文化施設との連携などとする形はあると思われる。

○委員

・行政との協働であれば平日の日中にしかできないのか。

○事務局

・関係部署の条項等によると思われる。

《基本方針3 「伝統文化等の継承」－施策1 文化財の保存・継承と活用⑨》

○委員

・「どんど焼き」は西東京市で盛んに行われているものなのか。

○事務局

・伝統文化等継承事業補助金により市内3団体に補助金を交付しているほか、青少年育成会2団体がどんど焼きを行っていると同関係部署から伺っている。

○委員

・事前に「どんど焼き」は広報などで告知しているのか。毎年、日にちが異なるため、事前に周知していただきたい。

○事務局

・主催者である各団体がチラシを作成しているほか、合同での案内もしており、地域では定着してきていると思う。実施日は、各学校と調整を行い開催している。

○委員

・北杜市と連携した子どもを対象に行った遺跡発掘体験事業を行ったというのは友好都市の関係か。

・

○事務局

・現在、西東京市は北杜市が合併する前の旧須玉町を含め3自治体と姉妹都市、友好都市として交流を行っている。平成29年度は西東京市の下野野遺跡と共通している縄文時代の遺跡が点在する北杜市で遺跡の発掘体験ができる事業を北杜市と協働して実施した。平成30年度には勝浦市の海で磯観察体験学習などを行った。

○副委員長

・残りの部分については、第6回の推進委員会で引き続きご意見をいただきたいと思う。

5 その他

○事務局

・事務局より、次回の委員会は3月26日（火）午後7時より行う。計画書と概要版については、修正したうえで委員長、副委員長の了解を得て完成とさせていただきます。次回

の委員会で計画と概要版をお渡ししたいと考えている。

- ・29年度評価については、引き続き協力いただきたい。

○委員長

- ・西東京市では、オリンピック・パラリンピックについて何か取組を行うのか。

○事務局

- ・西東京市はオランダのホストタウンとなっており、スポーツ振興課が中心となるものの、文化芸術分野についても取組を行っていきたいと考えている。

以上

《閉会》